

厚生労働科学研究費補助金  
医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業  
臨床事例を活用した実践的薬学教育研修システムの確立とその評価  
平成17年度～19年度 総合研究報告書  
主任研究者 澤田 康文  
平成20(2008)年4月

厚生労働科学研究費補助金 総合研究報告書目次

I. 総合研究報告

臨床事例を活用した実践的薬学教育研修システムの確立とその評価…………… 1

澤田康文

(資料 I-1) 平成 17 年度～19 年度に登録薬剤師に対して配信した教育的臨床事例の一覧

(資料 I-2) 平成 18 年度～19 年度に登録医師・歯科医師に対して配信した教育的臨床事例の一覧

II. 研究成果の刊行に関する一覧表……………22

III. 研究成果の刊行物・別刷……………25

## 臨床事例を活用した実践的薬学教育研修システムの確立とその評価

主任研究者 澤田康文 東京大学教授

研究要旨：ヒヤリハット事例などの医薬品に関する臨床事例の収集・提供システムを構築し、これを運用することで収集した事例を解析し、教育的事例として再構築して、薬剤師、医師・歯科医師に対してメールマガジンと WEB サイトを介して提供した。また、セミナーや研究会、e-ラーニングなど、多様な媒体による提供も行った。全体として、薬剤師をはじめとする医療従事者の資質向上や卒前教育に極めて効果的なシステムが構築できた。（197/200）

### 分担研究者

大谷 壽一 東京大学准教授  
堀 里子 東京大学講師

### A. 研究目的

薬物治療の質と安全性を確保するためには、医薬品の市販後における適正使用や安全対策が重要となる。特に、処方チェックや投薬ミスの防止、薬物治療の最適化などにおける薬剤師へのリスクマネージャーとしての期待は大きい。このため、処方のチェックや投薬ミスの防止、薬物治療の最適化などを担う薬剤師の資質向上に対する期待が高まっている。こうした社会的要請を受けて、薬剤師養成課程が6年制に移行した。

このため、6年制課程においてリスクマネージャーとしての十分な能力をもった薬剤師を養成する、いわゆる卒前教育と、現役(4年制卒)薬剤師の資質を、これから輩出される6年制卒の薬剤師と同等のレベルにまで早急に向上させるための、いわゆる卒後教育・研修の双方の充実が危急の課題となっている。このような教育・研修の中で臨床薬学的スキルを効率的に向上させるためには、ヒヤリ・ハット事例を学んだり、投薬ミスの阻止や薬物治療の適正化に貢献するといった経験を積むことは、非常に有効である。しか

し、そのような事例に巡り合う機会は少ない。また、そのような事例に巡り合っても、何を学ぶべきかわからず、資質向上に活かされないケースも多い。

このような問題点に対処するために、本研究の研究者らは、薬剤師の教育・研修のための「インターネットを用いた薬剤師間情報交換・研修システム」（アイフィス）を構築し、2000年より運用してきた。このシステムは、登録薬剤師からインターネットを活用して「ヒヤリ・ハット」「処方チェック」など、実際の処方に根ざした教育的事例素材を収集し、これに解説や解析を付加することで教育用事例に加工して全ての登録薬剤師にメールマガジンや WEB ページにより配信するというシステムである。

そこで本研究においては、これらの過去のノウハウを基盤として、ナマの事例（教育的事例素材）の効果的な収集、その評価・体系化・加工、ならびに教育用事例を用いた薬学教育、薬剤師研修のための方法論を確立するとともに、その方法論を実行・評価することを目的とした。

### B. 研究方法

#### B-1. 教育的事例素材の収集、整理解析・評価・加工

事例の素材を医療現場から効率的に収

集するために、商業誌、学会、研修会などにおいて、薬剤師間情報交換・研修システムの意義の説明ならびに周知宣伝につとめ、登録会員数の増加を試みた。また、事例を受け付けるための投稿コーナーとして、従来より運用されていた「処方チェック」、「ヒヤリハット」、「相互作用コンサルティング」「育薬・医薬品適正使用コンサルティング」の4つのレギュラーコーナーに加えて、5つのコーナーを新設した。すなわち、従来のシステムと比べて自由記述を増やし、簡易な投稿を可能にした「今日の処方から」コーナーを平成17年度に設けた。テーマ別に簡易に投稿できるコーナーとして、「包装・製剤変更によるトラブル」「吸入剤に関するトラブル」「インスリン製剤に関するトラブル」「ジェネリック医薬品に関するトラブル」の4つのコーナーを、平成17～18年に設けた。これらの計9コーナーを継続的に運用し、事例の収集に努めた。

同時に、地域薬剤師会、地域薬局チェーン、地域薬局などを協力者として、直接に事例の収集につとめた。

また、医療現場における薬物治療に関する現状や問題点を効率的かつ迅速に把握するためのアンケート実施体制の整備を行い、アンケート調査を実施する中で、自由記述欄からの事例シーズ収集の可能性についても検討した。

収集した事例をもとにして、エビデンス資料の収集評価などを重点的にを行い、継続的に事例の整理解析・評価・加工を行い、教育的臨床事例の作出につとめた。

## B-2. 教育的臨床事例を活用した、臨床薬学的スキルの教育

教育的臨床事例を、医療現場の薬剤師に対してさまざまな媒体により提供することで、薬剤師の臨床薬学的スキルの教育を行った。

インターネットを介した提供法としては、薬剤師間情報交換・研修システム（アイフィス）の登録会員に対して週一回のメールマガジンを送付するとともに、

事例を会員用WEBサイトに掲載した。

印刷物を介した提供法としては、福岡県薬剤師会会報、福岡市薬ジャーナル、日経ドラッグインフォメーションなどに、作出した教育的臨床事例を掲載した。

セミナー等を介した提供法としては、研究者らが毎月2回、年間22～24回開催する「育薬セミナー」において、「ヒヤリハット事例」「処方チェック事例」コーナーを設けて、作出した教育的臨床事例を提供・解説した。さらに、平成19年1月からは、育薬セミナーへのインターネットTV会議システムの導入（B-7参照）に伴って、「ミニヒヤリ」コーナーとして東京、福岡で各1事例を発表する形式とした。

さらに、臨床事例をさらに掘り下げた研修を提供するために、“ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会”（略称：ヒヤリハット研究会）を企画し、平成18年度及び平成19年度に開催した。研究会では、主に地域薬剤師会や薬局チェーンから収集した臨床事例について、発表担当薬剤師が事前に徹底的に調査・解析して考察を加えた。研究会では、臨床事例を3つのテーマに分類し、テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その後、発表に引き続き、参加した薬剤師間で討論するという構成とした。研究会終了後、参加者を対象として、研究会に関するアンケート調査を実施した。

## B-3. 薬局チェーンにおける薬剤師教育への応用

研究協力施設として協力いただける大手薬局チェーンにおいて、薬剤師間情報交換・研修システムの教育的臨床事例コンテンツを教材とした社内定期試験を平成17年4月に実施した。具体的には、臨床事例を試験問題として出題し、採点后、誤った回答をした問題について各人がサイトにアクセスして回答と解説を参照し復習した後に、レポートを提出してもらい、同時に研修に対する感想を文書で回答してもらった。対象者は処方鑑査

や疑義照会を主に担当する主任以上のスタッフ 29 名とした。試験問題は、薬剤師間情報交換・研修システムの教育的臨床事例に掲載された処方とその処方背景を提示し、問題点や対処法を記述させる形式とした。

#### B-4. 医師・歯科医師向け情報提供サービスシステムの構築、運用、評価

薬剤師を対象としたシステムにおいて収集された臨床事例を、医師・歯科医師向けのコンテンツに再構築して配信するためのプロセスとサーバシステム

(internet-based medical doctor's information sharing system; アイメディス) を構築した。システムの提供にあたって、医師・歯科医師はいずれも登録制とした。医師・歯科医師に対して配信する事例は、原則として薬剤師からアイフィスなどを介して寄せられ、教育的事例として加工された事例をもとに、再構築して作成した。提供するコンテンツは、「ヒヤリハット事例」、「相互作用クイズ」、「相互作用コンサルティング」の 3 カテゴリーとした。そして、医師にとつてのヒヤリハット事例を 4 週間に 3 例、薬物相互作用コンサルティングまたは相互作用クイズのいずれかを 4 週間に 1 例 (計週 1 例)、最新の薬物治療トピックスとともに配信し、Web サイト上に掲載した。登録者は、送られたメールマガジン内に記された URL をクリックすることにより当該事例を閲覧できる形式とした。

医師・歯科医師会員の募集は、パンフレットの配布、医師会を通じた参加依頼などを行った。創出された教育的臨床事例は、我々の構築した研修システム以外にも、日経メディカルオンラインの医薬品「医薬品情報」のコーナーにおいてもタイトルの紹介と月一回の事例掲載を行うことで活用した。

続いて平成 19 年 6 月にアイメディスの会員を対象として、本サービスの評価を目的とした多肢選択式のウェブアンケートを実施した。

#### B-5. サーバシステムの更新

従来、アイフィスのシステムは主任研究者らが勤務する大学の研究室に設置させ、研究者らにより直接に管理されていた。しかし、システムの拡大と高度化に伴い、サーバそのものを大学において管理する限り、技術面、保守性、機能、機密性などの観点から早晚限界に達すると判断した。そこで平成 18 年度において、サーバマシン自体を外部専門企業 ((株) ネットエイジ) のデータセンターにおき、専門家による保守管理を行うこととした。

さらに、従来サーバシステムとは分離して管理されてきたメール配信作業と、これに伴うメールアドレス管理を、WEB サーバのアクセス権管理などと一体化するとともに、専用のメールサーバを構築し、これを用いてメール配信を行うこととした。

#### B-6. インターネットを活用した教育研修コンテンツ提供法の確立

教育用臨床事例を含む教育研修コンテンツ (育薬セミナー及びヒヤリハット研究会) を広く効率的に提供するために、新たなメディアを応用することを企図した。そこでまず最初に、新たなメディアを用いた教育システムに関する薬剤師の意識と志向をさぐるために、登録薬剤師を対象に平成 18 年度に『育薬セミナー』の遠隔地配信、e-ラーニングに関するアンケートを実施した。その結果を受け、提供方法としては、インターネット遠隔会議システムを用いたセミナー、ならびにビデオ・オン・デマンド (VOD) による e-ラーニングシステムの二種を選び、そのシステムを構築、運用、評価した。

前者としては、H. 323 ネットワークプロトコルに準拠したインターネット遠隔会議システムを東京大学大学院薬学系研究科講堂 (東京都) および福岡市薬剤師会館講堂 (福岡県) にそれぞれ導入し、インターネットを介して双方向に接続してセミナーを実施した。また、その有用

性や問題点を明らかにするために、受講者に対してアンケート調査を行った。

後者としては、育薬セミナー及びヒヤリハット研究会における教材テキストをもとに、インターネット配信用の映像コンテンツを別途作成した。コンテンツは、登録した会員に対して、パナソニックラーニングシステムズ株式会社（東京）のストリーミングサーバより、ビデオ・オン・デマンド（VOD）形式による e-ラーニングコンテンツとして提供した。

### B-7. 継続的運営体制の確立

本研究期間が満了した後の、本教育・研修システムの運営について、申請者らが設立した特定非営利活動（NPO）法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター（DLM センター）との連携・協力体制を確立し、実務的な運営事務を上記法人に委託することで、総合的なシステムの運営体制の引き継ぎ準備を行った。

#### （倫理面への配慮）

本研究においてインフラとして使用している薬剤師間情報交換・研修システムに関しては、登録利用者の個人情報を取り扱うため、関係法規に基づき個人情報の取り扱いに関するプライバシーポリシーをサイト上に掲載するとともに、個人情報の保護につとめた。

## C. 研究結果

### C-1. 教育的事例素材の収集、整理解析・評価・加工

薬剤師間情報交換・研修システムの登録薬剤師数は、本研究開始前（平成 16 年度末）の 3,700 名から、平成 19 年度

末の 9,252 名と、約 2.5 倍に増加させることが出来た。

平成 17 年度～19 年度において、薬剤師間情報交換・研修システムから、ヒヤリハット事例の素材 69 件、処方チェック事例の素材 38 件、薬物相互作用コンサルティング事例の素材 37 件、育薬・医薬品適正使用コンサルティング事例の素材 72 件を収集した。

また、同システムの簡易投稿コーナーからは、「今日の処方から」より、臨床事例の素材 62 件、「包装・製剤変更によるトラブル」「吸入剤に関するトラブル」「インスリン製剤に関するトラブル」「ジェネリック医薬品に関するトラブル」事例をそれぞれ 42, 4, 8 及び 9 件収集した。これにより、システムの投稿コーナーからの件数は三年間で 341 件となった。

これ以外にも、薬剤師会等との協力を得て、FAX、口頭や電子メールなどによっても多数の事例素材を収集できた。

収集した事例素材と各種文献的エビデンスなどをもとに、平成 17 年度～19 年度中に、教育用臨床事例を新たにそれぞれ 78, 113, 131 事例（3 年間累計で 322 事例）作成した（表 1）。

また、薬剤師向け事例をもとにして、医師・歯科医師向けの教育用臨床事例を平成 18 年度及び 19 年度に、計 105 事例作成した。

### C-2. 教育的臨床事例を活用した、臨床薬学的スキルの教育

薬剤師間情報交換・研修システム（アイフィス）の登録会員に対して、平成 17 年度～19 年度中の 3 年間に、教育的臨

表 1. 平成 17 年度～19 年度において配信・公開された新規教育的臨床事例数

年度	アイフィスメルマガ・ アイフィスサイト	アイフィスサイト トラブル事例集・ 今日の処方からコーナー	ヒヤリハット 研究会	育薬セミナー (ミニヒヤリ コーナー)	計
H17	53	25	-	-	78
H18	52	20	35	6	113
H19	52	4	31	44	131
合計	157	49	66	50	322

床事例として、ヒヤリハット事例 83 事例、処方チェック事例 19 事例、薬物相互作用コンサルティング事例 19 事例、育薬・医薬品適正使用コンサルティング事例 36 事例、包装・製剤変更によるトラブル事例 22 事例、インスリン製剤に関するトラブル事例 6 事例、吸入剤に関するトラブル事例 3 事例、ジェネリック医薬品に関するトラブル事例 7 事例、今日の処方から 11 事例の計 206 件の新規事例を配信した（表 1 の左 2 列）。

育薬セミナー及び VOD 育薬セミナーにおいては、平成 17 年度～19 年度中の 3 年間に、教育的臨床事例として、ヒヤリハット事例 68 事例と処方チェック事例 68 事例を配信/提供・解説した（内容は前述のものと重複）。さらに、育薬セミナーのミニコーナーにおいては、平成 19 年 1 月から平成 20 年 3 月までに、50 の新規事例を提供・解説した（表 1）。

福岡県薬剤師会の会報において、教育的臨床事例を 72 事例、福岡市薬ジャーナルに教育的臨床事例を 36 事例、それぞれ掲載した。日経ドラッグインフォメーションには 18 事例を掲載した（内容は前述のものと重複）。

2006 年及び 2007 年には、“ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会”を各一回主催開催し、計 70 事例（うち新規事例 66 事例、4 事例は前述の育薬セミナーミニコーナーと重複）を詳細に公開・討論した。第一回研究会終了後に行ったアンケートの結果

（回答者 72 名）、本研究会が役に立ったとの回答は、全体の 96% にのぼった。本研究会で取り上げた事例のうちの一事例は、研究会後、担当薬剤師が、さらに詳細な解析を加え、日本薬剤師学会や、第 17 回日本医療薬学会にて発表を行い、そのうちの一つは優秀発表賞を受賞した。この他にも、いくつかの発表演題については、現在原著論文として学術雑誌へ投稿準備中である。

さらに、第一回のヒヤリハット研究会で発表された事例はすべて内容を再度ブラッシュアップし、教育研修教材として

編集し、「薬剤師のための徹底リスクマネジメント」として、2007 年 5 月に発刊した。

### C-3. 薬局チェーンにおける薬剤師教育への応用

試験後のアンケートの結果、回答者（n=29）からはおおむね、サイトにアクセスすることで臨床事例やその背景を詳細に学習することができたとの評価を得た。また、教育的臨床事例は、試験問題として適切であるとの回答が大多数を占めた。

また、今回の研修法では、対象者は試験準備のため全ての教育的臨床事例を閲覧して学習する必要性が生じるため、多数の事例を疑似経験させるには極めて効果的であった。

### C-4. 医師・歯科医師向け情報提供サービスシステムの構築、運用、評価

医師・歯科医師を対象に、企図したシステムを構築し、安定的に運用することが出来た。そして、会員数の拡大に積極的につとめた結果、2008 年 3 月末までの医師・歯科医師向け情報提供サービスの登録会員は、約 1,500 名まで増加した。

また、2007 年 6 月に実施したアイメディスに対する評価アンケートでは、回答者の 95% から、アイメディスのウェブサイトは日々の診療に役立つとの評価を得た。

### C-5. サーバシステムの更新

平成 17 年度までに構築したサーバシステム全体の構成、及びシステムを稼働させるためのデータベースの構造を基盤として、仕様の再設計を行った結果、サーバシステムを外部専門企業（(株) ネットエイジ）のサーバに、管理機能を充実した形で移設することができた。これにより、サイトの平均的なレスポンス時間が短縮し、操作性が向上した。また、会員データベース、事例データベースなど個々に、アクセスできる管理者としての権限を細かく設定できるようにした。これにより、例えば事例の掲載、更新、修

正作業などを行う事務員が、個々の会員情報にはアクセスできなくなるなど、セキュリティの向上も実現した。

サーバの移行後、構築したサーバシステムはシステムダウンや誤動作などの問題点もなく、安定して運用することができた。

#### C-6. インターネットを活用した教育研修コンテンツ提供法の確立

『育薬セミナー』の遠隔地配信、eラーニングに関するアンケートを実施した結果、育薬セミナーをeラーニングとして配信する方法について要望を尋ねたところ、集合研修と比較して、個別のビデオ・オン・デマンド（VOD）を希望されている方が多数派であった。このため、インターネットを活用した教育研修コンテンツ提供法として、1) 遠隔会議システム、2) VODによる教育研修コンテンツ提供システム、の両方を構築することとした。

構築したインターネット遠隔会議セミナーシステムを用いて、東京都文京区と福岡県福岡市のセミナー会場を結び、育薬セミナー全22回と、第2回ヒヤリハット研究会1回を開催することができた。遠隔会議セミナーシステムに関するアンケートの結果、総合的に「満足している」または「やや満足している」との回答者が87.8%を占めていた。また、他地域の薬剤師と同一内容の研修を受けることができることをメリットと「思う」または「どちらかといえば思う」との回答が88.6%を占めており、導入したシステムの有用性が示された。

また、VODによる教育研修コンテンツ提供（eラーニング）システムを用いて、平成19年4月から平成20年3月に開催された育薬セミナーに相当する内容を、それぞれセミナー開催の約1ヶ月後にストリーミングサーバを用いて配信することができた。

なお、当システムの運営委託先である特定非営利活動（NPO）法人医薬品ライフタイムマネジメント（DLM）センターは、

薬剤師認定制度認証機構よりプロバイダーの認証を受けて、本VODセミナー及び会場型セミナーが、DLM認定薬剤師研修制度（全国で唯一認められた「特定領域認定制度」である）の認定単位となった。

#### C-7. 継続的運営体制の確立

本システムに関して、NPO法人DLMセンターに、運営事務を移転した。DLMセンターは、平成20年度より3年間にわたり、科学技術振興機構より社会技術研究開発事業「研究開発成果実装支援プログラム」の実装支援対象に選定され、引き続き従前同様の安定した運営が可能な体制となった。

#### D. 考察

本研究の遂行により、1) 医療現場からの事例素材の効果的な収集法の構築とその実践、2) 事例の体系的分類・解析と教育的臨床事例への加工、ならびに3) 教育的臨床事例の提供による、薬剤師の臨床薬学的スキルの教育、というサイクルを安定的に運用し、教育的臨床事例を間断なく作出し、提供することができた。

事例素材の収集には、医療現場において勤務する薬剤師の協力が不可欠だが、当システムの登録薬剤師数は10,000名近くにまで達した。とはいえ、積極的に事例を投稿してくれる協力的な薬剤師は限られており、現在では各地の協力薬剤師からの直接的な事例投稿が半数程度を占めている。登録薬剤師に対して、事例を投稿することの意義と重要性について、継続的に啓発するとともに、なんらかのインセンティブを付与していく必要があるかもしれない。今後は、事例を収集するためにさらに多様なチャンネルを検討する必要があるだろう。たとえば、アンケートの中でトラブル事例を自由記述させることにより、多数の事例の「シーズ」を収集することができたことから、連結可能アンケートも、事例の収集法として効果的であると考えられた。

作出した教育的臨床事例の提供に関しては、本研究においてきわめて多様な媒体を活用し、広く事例を提供した。すなわち、登録薬剤師に対するインターネット配信、雑誌・書籍による提供、セミナーにおける提供、チェーン薬局内教育への提供、“ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会”の開催、IT 技術を活用したインターネット配信（e-ラーニング）などによる事例の提供を行った。また、セミナーについてもインターネット TV 会議システムを活用した遠隔会議を導入した。これらの多彩な媒体の複合的効果により、年齢、地域などを問わず、教育的臨床事例に広くアクセスすることが可能となった。特に当システムはインターネットを活用したシステムであり、医療従事者の質の地域格差を縮小し、ひいては医療の質の地域格差を縮小することにもつながると考えられる。

さらに、薬剤師向けに作出された事例をもとに加筆修正を行い、医師・歯科医師に対してもこれを提供することができた。医師向け情報提供サービスの登録会員は、2008 年 3 月末までに、約 1,500 名まで増加した。そして、そのシステムや内容について医師・歯科医師を対象にアンケート調査を行い、高い評価を得ることができた。このことは、本システムにより作出される教育的臨床事例が、薬物治療に関わる他の医療従事者の教育・研修にも有用であることを示している。事実、本取り組みに関しては医療安全上の意義が認められ、日本医師会の医療安全対策室のウェブページとアイメディスがリンクでつながった。これにより、本取り組みの医師における認知度は今後さらに高まると期待される。今後は、多様な職種から薬物治療に関する事例を収集し、それをそれぞれの職種の視点から解析し、各職種のための教育的臨床事例に加工して提供する、という職種の壁を越えた情報交換システムに拡大することも考慮すべきであろう。

また、今回作出された事例は、薬剤師

の卒後教育はもちろんのこと、6 年制薬剤師の大学における教育においても非常に有用であると考えられる。6 年制の学生が進級する次年度においては、これらの事例を用いた薬剤師養成教育を実践し、その効果を評価していく必要があると考える。

最終的には、収集、評価、解析した事例をライブラリ化し、有効に活用する体制を確立するとともに、それらのライブラリをもとに、未だ発生していない医療ミスやトラブルを事前に予測し、その対処法を提案できるようにすることが望まれる。

## E. 結論

本研究の遂行により、1) 医療現場からの事例素材の効果的な収集法の構築とその実践、2) 事例の体系的分類・解析と教育的臨床事例への加工、ならびに 3) 教育的臨床事例の提供による、薬剤師の臨床薬学的スキルの教育、というサイクルを安定的に運用し、教育的臨床事例を間断なく作出し、提供することができた。また、作出されたコンテンツを、多様な媒体を用いて提供するとともに、医師・歯科医師に対しても提供することができた。本システムは、薬剤師をはじめとする医療従事者の資質向上や卒前教育に極めて効果的な教育・研修システムであると考えられた。

## F. 健康危険情報

特になし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. 澤田康文. 全国薬剤師間情報交換研修システム（アイフィス）による医薬品適正使用・育薬の推進. 日病薬誌、43: 167-170 (2007).

2. 齊田翌美, 井上綾子, 石橋久, 富永宏治, 堀里子, 三木晶子, 大谷壽一, 高木淳一, 小野信昭, 澤田康文. 患者を対象としたケトプロフェンテープの使用感に関する製剤間比較調査. 薬学雑誌、印刷中 (2008.5 掲載予定)
3. S. Hori, N. Matsuo, A. Yamamoto, T. Hazui, H. Yagi, M. Nakano, Y. Suzuki, A. Miki, H. Ohtani and Y. Sawada. Piloerection induced by replacing fluvoxamine with milnacipran. *Br. J. Clin. Pharmacol.* 63(6): 665-671 (2007).
4. Tsuda A, Fujiyama J, Miki A, Hori S, Ohtani H, Sawada Y. The first case of phenytoin intoxication associated with the concomitant use of phenytoin and TS-1, a combination preparation of tegafur, gimeracil, and oteracil potassium. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2007 Nov 17; [Epub ahead of print].
5. 松尾 律子, 田中 祥子, 加納 美知子, 磯野 喜美子, 田中 泰羽, 田浦 智子, 浅田 由貴, 赤嶺 有希子, 沢井 一, 木下 正和, 須藤 智美, 久野木 良子, 三木 晶子, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 大谷 壽一, 澤田 康文. クラリスロマイシンドライシロップと各種カルボシステイン製剤併用時の苦味強度における先発医薬品と後発医薬品間の違い. 薬学雑誌, 128(3): 479-485 (2008).
- 3) 齊田翌美, 井上綾子, 石橋久, 富永宏治, 勢島充, 高木淳一, 堀里子, 三木晶子, 小野信昭, 大谷壽一, 澤田康文. ケトプロフェン貼付剤の先発医薬品と後発医薬品の使用感実態調査. 第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井, 2006 年 10 月), 講演要旨集 p.136
- 4) 堀里子, 三木晶子, 高木淳一, 小野信昭, 田中祥子, 一瀬信介, 大谷壽一, 澤田康文. ヒヤリハット事例に学ぶ薬剤業務のリスクマネジメント研究会の展開と評価 第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井, 2006 年 10 月), 講演要旨集 p.210
- 5) 堤麻理子, 石橋久, 満生清士, 高木淳一, 瀬尾隆, 堀里子, 三木晶子, 小野信昭, 大谷壽一, 澤田康文. 散剤の賦形量が年齢によって不連続であったために起こった患者トラブル. 第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井, 2006 年 10 月), 講演要旨集 p.319
- 6) 金澤彩子, 八尋健, 渡辺哲夫, 石橋久, 高木淳一, 三木晶子, 堀里子, 小野信昭, 大谷壽一, 澤田康文. シート錠数の思い違いにより生じた計数調剤ミス事例とその要因解析. 第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井, 2006 年 10 月), 講演要旨集 p.320
- 7) 長岡佐知, 西本絢子, 富永宏治, 高木淳一, 堀里子, 三木晶子, 小野信昭, 大谷壽一, 澤田康文. 同一処方内薬剤において PTP シートの色錠剤形状が類似した場合の服薬トラブル. 第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井, 2006 年 10 月), 講演要旨集 p.324
- 8) 鮫島千織, 満生清士, 堀里子, 三木晶子, 高木淳一, 木原三千代, 小野信昭, 大谷壽一, 澤田康文. ドライシロップ製剤の他剤との混合による味覚変化. 第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井, 2006 年 10 月), 講演要旨集 p.326

## 2. 学会発表

- 1) 三木晶子, 堀 里子, 大谷壽一, 澤田康文, 保険薬局薬剤師研修への「薬剤師間情報交換・研修システム (IPHISS)」利用の試み、第 25 回医療情報学連合大会 (2005 年 11 月、横浜)
- 2) 堀里子, 三木晶子, 大谷壽一, 澤田康文. 薬剤師間情報交換・研修システム (アイフィス) による医薬品適正使用・育薬. 日本薬局管理学会第 1 回年会 (東京, 2006 年 6 月), 講演要旨集 p.11

- 9) 堀里子, 三木晶子, 大谷壽一, 澤田康文. インターネットを活用した医師に対する情報システム構築の運用. 第 10 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (札幌, 2007 年 7 月), 講演要旨集 p. 58
- 10) 齊田翌美, 井上綾子, 石橋久, 冨永宏治, 勢島充, 高木淳一, 堀里子, 三木晶子, 小野信昭, 大谷壽一, 澤田康文. ケトプロフェンテープの先発医薬品と後発医薬品の使用感調査. 第 10 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (札幌, 2007 年 7 月), 講演要旨集 p. 83
- 11) 渡邊哲夫, 三木晶子, 堀里子, 大谷壽一, 澤田康文. ツロブテロール貼付剤の PK 解析による製剤間の比較. 第 17 回日本医療薬学会年会 (群馬, 2007 年 9 月), 講演要旨集 p. 200 (優秀発表賞受賞)
- 12) 齊田翌美, 井上綾子, 金澤彩子, 堤真理子, 石橋久, 森千江子, 勢島充, 高木淳一, 小野信昭, 堀里子, 三木晶子, 大谷壽一, 澤田康文. 別物調剤事例の要因解析とその評価. 第 40 回日本薬剤師会学術大会 (神戸, 2007 年 10 月), 講演要旨集 p. 452
- 13) 佐藤宏樹, 大谷壽一, 三木晶子, 堀里子, 澤田康文. 薬剤師を対象とした集合研修へのインターネット TV 会議システムの導入と評価. 第 10 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (札幌, 2007 年 7 月), 講演要旨集 p. 106

また、以下の研究会を主催した。

- ・第 1 回 ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会 (2006 年 5 月 27～28 日)  
(東京大学小柴ホール)
- ・第 2 回 ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会 (2007 年 7 月 1 日)  
(東京大学大学院 薬学系研究科総合研究棟講堂及び福岡市薬剤師会会館をイ

ンターネット TV 会議システムでつな  
いで実施)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

システムの運営委託先である特定非営利活動法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンターより、下記の商標登録を出願した。

- ・「i-Phiss」「アイフィス」
- ・「i-Mediss」「アイメディス」

資料 I-1

平成 17 年度～19 年度に登録薬剤師に対して  
メールマガジンと WEB サイトにより配信した  
教育的臨床事例の一覧

厚生労働科学研究

医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス総合 研究事業

「臨床事例を活用した実践的薬学教育研修システムの確立とその評価」

研究代表者：澤田康文

## 平成 17 年度配信 ヒヤリハット事例

題名	配信年月日
1 誤った指導で、セレベントディスクスのマウスピースに穴をあけてしまった	2005.4.3
2 プレタール服用患者へのグレープフルーツジュース飲用の注意は喚起すべきか？	2005.4.7
3 麻薬処方箋の記載項目のチェックが不十分だった薬局	2005.4.20
4 ケテックが脳梗塞既往歴のある手足麻痺の患者に処方！まさか、車の運転をするとは思わなかった医師	2005.5.12
5 他人の薬情を誤交付され、自分の処方情報が他人に知られるのではと危惧した患者	2005.6.15
6 高熱時頓服指示でアルピナ坐薬が処方されても疑問に思わなかった薬剤師	2005.6.22
7 サリグレンの副作用確認をせず、その治療のための耳鼻科受診が悔やまれた薬剤師	2005.6.29
8 レンドルミンを口腔内崩壊錠と同じように口中でとがして服用	2005.7.13
9 クラリスをリーマスと別物調剤！一体、なぜ？	2005.7.20
10 ハルナール D 錠の古い指導せんには注意！過量服用になる可能性あり！	2005.8.3
11 いつもの呼吸器系専門医からのスピロペントの処方を喘息治療目的（実は尿失禁治療目的） と思いきで誤服薬指導	2005.9.14
12 剤型変更されたタケブロン <sup>®</sup> の服薬ノンコンプライアンスの原因となった夫婦仲と一包化包装	2005.10.5
13 フルファリン錠の製造販売会社によって錠剤の色が相違して薬剤師が混乱！	2005.10.12
14 一包化指示の記載漏れに気づかず交付して服薬ノンコンプライアンス	2005.10.19
15 包装の問題！PTP 1 シートが 10 カプセル（錠）とは限らない	2005.10.26
16 病院も薬局も同性同名の患者取り違えに気づかず、そのまま薬を交付してしまった	2005.12.14
17 PTP の色が似ているディオバン錠とアクトス錠を混乱してアクトス錠を倍量服用してしま った	2005.12.21
18 振ってほならないナイスピー点鼻液を振ったためトラブル	2006.1.4
19 一包化と PTP シート調剤が混在したため重複服用してしまった患者	2006.1.25
20 リウマトレックス PTP シートへの「一週間分」の表示追加で、かえって混乱する場合がある	2006.2.8
21 スピリーバカプセルをアルミシートから取り出し損ねた患者	2006.3.1
22 制吐剤の説明ミスで起こった服薬ノンコンプライアンス	2006.3.8
23 ラベル色が類似している 2 種のインスリン製剤をひとつの外箱に入れて交付してしまった	2006.3.22

## 平成 17 年度配信 処方チェック事例

題名	配信年月日
1 サンリズムのつもりでザンタックが処方された	2005.5.5
2 コンバントリンドライシロップの服用間隔	2005.5.26
3 小児の嘔吐に対するフェノパールの処方に出くわした	2005.8.17
4 前立腺肥大症に伴う排尿障害治療薬ハルナールが女性に処方された	2005.9.21
5 ブイフェンドの負荷投与、維持療法の不明確な処方には注意！	2005.12.28
6 リバンチルからリピディルに同投与量で切り替えられたらとにかく疑義照会	2006.1.11

## 平成 17 年度配信 相互作用コンサルティング事例

題名	配信年月日
1 同時服用ではないテルネリンとルボックスも疑義照会すべきか？	2005.5.20
2 コルヒチンとクラリスの併用は問題ないか	2005.9.28
3 ラミシールの薬物相互作用は少ない？気になるノリトレンとの併用！	2005.11.9
4 エビスタとエストリールの併用は薬理的に拮抗しないか？	2006.1.18
5 ニューキノロン系抗菌剤と非ステロイド性抗炎症剤の相互作用は時間をあければ回避できるか？	2006.2.1
6 緑茶がワルファリンの効果を左右する？	2006.3.29

## 平成 17 年度配信 育薬・医薬品適正使用事例

題名	配信年月日
1 レキソタンの頓服の有効性と安全な使用方法について知りたい	2005.4.14
2 オイグルコンは食前に服用した方がよいのか？	2005.4.28
3 インフルエンザに感染した川崎病小児では、アスピリン投与はいったん中止すべきか？	2005.6.2
4 過少量服用後のワルファリンの投与設計はどうすればよかったか？	2005.6.14
5 ベンゾジアゼピン系薬剤による胸焼けを発見	2005.7.6
6 デプロメルからトレドミンに切り替えて新規副作用、鳥肌が惹起！	2005.7.27
7 閉経後骨粗鬆症治療薬のエビスタが男性に処方された	2005.8.10
8 メトホルミンが制限量 750 mg を超えて処方された	2005.8.24
9 痛風発作にロキソニンの倍量投与は妥当だったか？	2005.8.31
10 術前のパナルジン中止時にはどのような処置が必要か？	2005.9.7
11 ミダゾラム注による健忘	2005.11.2
12 NSAIDs の重複投与に有用性があるか？	2005.11.16
13 バイアグラの適応外使用（肺高血圧症の治療）	2005.11.22
14 オルメテックの味覚障害	2005.11.30
15 レンドルミンをレンドルミンDに変更して頭痛が惹起！添加物のアスパルテームが原因か？	2005.12.7
16 軽度な糖尿病患者であってもガチフロは禁忌ではないのか	2006.2.16
17 カルスロットをグレープフルーツジュースで服用するように指示した医師	2006.2.22
18 カルブロックを空腹時に服用していたことを発見！その後の適切な服薬指導は？	2006.3.15

## 平成 18 年度ヒヤリハット事例

題名	配信日
1 PTP 上で錠剤の裏表が偶然にも整列配置していたため異なる薬と判断して誤服薬しそうになった患者	2006.4.12
2 若年緑内障患者への PL 顆粒処方を見逃した	2006.4.26
3 診療科が違う複数処方で疑義照会を立て続けに行ったが、最初の照会内容の処方せんへの記載を失念し、更に集薬・調剤鑑査ミスを連続して起こしてしまった	2006.5.2
4 製剤が小型化したアダラート CR 錠の落とし穴	2006.5.10
5 書店で購入可能な「薬の手引き書」の誤情報を信じ、ガストローム顆粒を服用しなかった患者	2006.5.17
6 ティーエスワンからフルツロンへの変更において十分な休薬期間はおかれていたが、実は患者は切り替え時までティエスワンの自宅残薬を服用し続けていた	2006.5.24
7 ティエスワンによるフェニトインの血中濃度上昇	2006.6.7
8 1 束 7 枚のつもりで調剤したフランドルテープ S は、1 束 10 枚だった！	2006.6.21
9 リルテックの食後投与を何度も見過ごしていた薬剤師	2006.6.28
10 ファックスで受けた処方せんの汚れと誤解を生む印字によって起こった調剤ミス	2006.7.12
11 誤調剤の対応のために患者宅へ電話連絡したが、番号が変更されていた	2006.7.19
12 プレドニンを取りに来ない患者に連絡を怠った！離脱症状が心配！	2006.7.26
13 薬剤性排尿困難の既往患者へチアトンが処方された	2006.8.9
14 使用期限内でも保存に注意！調剤棚のマーズレン S 顆粒が光で褪色	2006.8.16
15 医師の処方削除ミスを見逃し、患者の血圧が上昇	2006.8.23
16 意外に多い！後発医薬品の PTP シート・錠剤間の識別コードの相違	2006.8.30
17 用法変更による患者負担金の違いを説明したことで患者・医師間にトラブルが発生	2006.10.4
18 夏場、ウレパールとリンデロン-VG 軟膏の混合で水分分離	2006.10.11
19 便の中に発見された錠剤、エプツール錠と思いこんだが実はセレニカ R 錠	2006.10.18
20 「以下余白」部分に手書きで薬名が追加されていた処方せんをめぐって処方医院とトラブル	2006.11.15
21 同じ名前でもメーカーにより中味が異なる漢方薬をうっかり進言	2006.11.22
22 ビソルボンの代謝物の一つがムコソルバンである！両剤の併用処方の問題ないか？	2006.12.6
23 今までとシートデザインが異なるエピスタ錠（二社からの併売品）を交付され不信感を抱いた患者	2006.12.13
24 セレネース錠、1.5 mg 錠より 3 mg 錠が小さいことを知っていれば、服薬ノンコンプライアンスが防げたはず！	2006.12.20
25 先発品と後発品で薬剤情報提供書の文章が違ったために患者に不信感を与えてしまった	2006.12.27
26 後発医薬品への切り替えに関して、病院の事情と医師の勘違いから薬剤変更となり不安になった患者	2007.1.24
27 キプレスチュアブルを服用しはじめてから悪夢で目が覚める小児	2007.2.14
28 お薬手帳にたたみ込まれてしまった処方せんが消えてしまい、調剤不可能となってしまった	2007.2.21
29 新規採用キシロカイン製剤の納品・検品・調剤の三重ミス	2007.2.28
30 リーゼ錠の一包化不要指示を見落として、倍量処方のまま一包化してしまって有害事象が惹起	2007.3.7
31 2 単位/目盛のマイジェクターに慣れている患者が 1 単位/目盛に変更になって混乱し、インスリン過小量投与	2007.3.21
32 舌と食道が真っ黒に着色したフェログラデュメット服用患者	2007.3.28

## 平成 18 年度処方チェック事例

題名	配信日
1 入院患者の持参薬処方チェック時に、他院のデルモベート軟膏の処方削除ミスを発見	2006.5.31
2 リウマチ患者にビブラマイシンが処方！？	2006.6.14
3 15 歳未満の水疱瘡の患者にベレックスが処方された	2006.8.2
4 アベロックスが処方されたら、車の運転をチェック！	2006.11.8
5 緊急避妊の際の低用量ピル、問題ある用法・用量を発見！	2006.1.17
6 ドパールからイーシー・ドパールに同じレボドパ量で切り替えられた	2007.1.31

## 平成 18 年度相互作用コンサルティング事例

題名	配信日
1 食品中のカフェインとテオフィリンの併用はどの程度危険か	2006.7.5
2 インデラルとマクスルトは本当に併用してはいけないか？	2006.9.7
3 ユリーフ投与中の前立腺肥大症患者へのデトルシール投与は問題ないか。	2006.9.13
4 アロプリノールとアンジオテンシン 2 受容体拮抗薬との間で皮疹などの過敏反応が惹起される ことがあるか？	2006.9.20
5 リファンピシンの酵素誘導によるグリクラジドの効果減弱、誘導の程度は？	2006.9.27
6 併用禁忌であるクラリスとカフェルゴットの併用はどの程度危険か	2006.10.25
7 カルタン服用透析患者にプロトンポンプ阻害薬は併用可か？	2006.11.1
8 患者が誤ってオメプラールとタケブロン OD を両方服用、めまいの発症との関係は？	2007.1.10
9 パキシルを漸減中のロプレソールの投与量調節法は？	2007.3.14

## 平成 18 年度育薬・医薬品適正使用事例

題名	配信日
1 セファランチン末の滲出性中耳炎への適応外使用	2006.4.5
2 腹痛にニトロベン？	2006.4.19
3 レボドパ服用患者が注意しなくてはならない高蛋白質食	2006.11.29
4 イトリゾール内用液はなぜ空腹時服用？ いったいつから食事摂取が可能なのか？	2007.1.4
5 患者が訴えた唇のピリピリ感は薬剤による副作用か？	2007.2.7

## 平成 19 年度 ヒヤリハット事例

題名	配信日
1 外観が類似した複数規格単位のエピリファイ錠が同時に処方され、服薬トラブルが起こるのでないかと懸念	2007.04.11
2 患者持参薬（ユベラ N カプセル）を院内採用薬（ケントン S カプセル）に切り替え時、成分含量が異なることに気づかず、倍量で調剤、投薬してしまった	2007.04.25
3 糖尿病治療薬の粉碎指示、乳糖で賦形して大丈夫？	2007.05.23
4 併売のモーラステープでも包装の違いで治療効果に差があると思いこんだ患者	2007.05.30
5 服用日指定のテモダールの日付が間違っているのに気づかず投薬してしまった	2007.06.06
6 妻の自宅残薬の「ツムラ」の漢方薬「猪苓湯」を入浴剤と勘違いして利用しようとしていた夫！	2007.06.20
7 3 病院、3 診療科、3 薬局にかかる患者、お薬手帳があったにも関わらず禁忌薬剤が見逃されてしまった	2007.06.27
8 ワーファリン治療効果の増強（INR 上昇）は他院で処方されたクラリス、ロキソニンとの相互作用か？	2007.08.01
9 オルメテックによる副作用（眠気）のために患者が自己判断で自宅残薬のディオバンに変更	2007.08.08
10 ボナロン 35 mg 錠服用後、210 分間なにも食べなかった患者	2007.08.15
11 母親がテオドール錠を粉碎して子供に服用させ、興奮・手の震え	2007.08.22
12 賦形に用いた乳糖の口当たりが以前と違うことからチラーゼン末の服薬ノンコンプライアンスに陥った患者	2007.08.29
13 ゼローダ或いはフルツロンとの併用によるワーファリン治療効果の増強	2007.09.12
14 複合的な要因により注入器の異なるインスリン製剤を交付してしまった	2007.09.20
15 薬剤師・医師が、ウブレチドに起因する副作用（下痢）を長期間にわたって見過ごしていた複合的要因	2007.09.26
16 カプトリル-R カプセルのところをパラミチンカプセルを誤調剤！原因はワーファリンの併用、不適切な一包化調剤にあり！	2007.10.11
17 アモバンによる苦みが持続！口臭の原因になるのか？	2007.10.19
18 飲酒翌日のシアナミド服用でアルコール反応が惹起して患者と家族がびっくり	2007.11.21
19 テレビを見ていてアシノンカプセル服用すべきところスピリーバカプセルを誤飲	2007.12.12
20 お薬手帳の薬名ラベル、「自分で貼るから」は危険	2007.12.26
21 添付文書上では存在しないマーズレン-S 顆粒(1 g/包)	2008.01.09
22 薬袋の「1 日 1 回貼りかえて」の印字を勘違いして ニトロダーム TTS を 1 日 2 回貼付していた患者	2008.01.17
23 エパデルカプセルと一緒に一包化したテルネリン錠が変色した	2008.01.23
24 積極的患者インタビューから「マイスリーによる睡眠遊行症」を発見	2008.02.13
25 アドエア 100 ディスカスは 60 回吸入できると勘違いして処方した医師、空吸入し続けた高齢患者	2008.02.20
26 グリベンクラミドの錠剤の形が規格単位間で違うために勘違いをして、2 倍服用してしまった！	2008.02.27
27 処方せんではなく間違った薬情と見比べて誤った調剤薬鑑査をしてしまった薬剤師	2008.03.19

## 平成 19 年度 処方チェック事例

題名	配信日
1 チザノンのつもりでチザニンが処方された	2007.04.05
2 用量調節のためにニコチネル TTS の切断を指示した医師	2007.06.13
3 アドナの止血作用とアスピリンの抗血小板作用は拮抗するのか？	2007.07.11
4 チラーチン末とチラーチン S は同じものと思った医師	2007.07.18
5 オイグルコンとグルファストの併用をインスリン強化療法と同じと考えた医師	2007.10.24
6 オパルモンとその後発品は一包化可否の違いがあって別物と考える	2007.11.14
7 イスラム教徒の患者に牛由来のゼラチン含有カプセル剤が処方された！	2007.12.05

## 平成 19 年度 薬物相互作用コンサルティング事例

題名	配信日
1 ミカルティスとバイミカードの併用は問題ないのか	2007.05.09
2 ミコフェノール酸モフェチルと鉄剤の併用は避けるべきか？	2007.11.07
3 チラーチン S とスローフィー、酸化マグネシウムの併用は問題ないか？	2008.01.04
4 イトラコナゾールと PPI の併用と パルス療法休業期間中の薬物相互作用	2008.01.30

## 平成 19 年度 育薬・医薬品適正使用コンサルティング事例

題名	配信日
1 嚥下障害にチバセンなどのアンジオテンシン変換酵素阻害薬は有効か	2007.04.18
2 成人のてんかん患者への抗ヒスタミン薬投与は避けるべきか？	2007.05.02
3 透析患者に通常量のランサップが処方された	2007.05.17
4 ベネット錠服用 30 分後に牛乳を飲んでもよいか？	2007.07.04
5 メチコパール点滴静注時に光による分解は問題とならないか？	2007.07.25
6 子宮頸管熟化促進剤と $\beta 2$ 刺激薬の併用で考えられることは？	2007.09.05
7 透析患者にチガソソが処方されたが問題ないか？	2007.10.03
8 糖尿病患者へのスタチンの影響	2007.10.31
9 ミオナールの適応外使用	2007.11.28
10 ガバベンチンの適応外処方	2007.12.19
11 進行性腎細胞癌に対するモービックの適応外使用	2008.02.06
12 ビ・シフロールのむずむず脚症候群への適応外使用とは？	2008.03.05
13 のどが渇く患者にアシノンが処方された	2008.03.12

平成 18 年度～19 年度に登録医師・歯科医師に対して  
メールマガジンと WEB サイトにより配信した  
教育的臨床事例の一覧

厚生労働科学研究

医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス総合 研究事業

「臨床事例を活用した実践的薬学教育研修システムの確立とその評価」

研究代表者：澤田康文

## 平成 18 年度ヒヤリハット事例

No.	タイトル	事例配信日
1	錐体外路症状などを起こす可能性ある薬剤が複数併用された	2006/4/3
2	朝の薬剤と夕方の薬剤を勝手に入れ替えて服用していた患者	2006/4/17
3	ブソイドエフェドリンを含有した鼻炎薬を購入しようとした高血圧患者	2006/4/24
4	以前に飲んでいた別の薬の服薬回数に引きずられて過量投与	2006/5/1
5	ワルファリン服用の情報が歯科医師に伝わっておらず、次の日に抜歯することとなってしまう	2006/5/8
6	レンドルミン普通錠を口腔内崩壊錠と同じように口中でとがして服用していた患者	2006/5/15
7	自宅残薬のフルツロンとティーエスワンを同時服用し、副作用が惹起してしまった患者	2006/5/22
8	ニューキノロン系抗菌剤による痙攣誘発の危険因子（基礎疾患としての痙攣と非ステロイド性消炎鎮痛剤との併用）まで考慮した処方設計を	2006/5/29
9	モーラステーブ剥離後も注意しなければならない光線過敏症	2006/6/12
10	高度腎障害患者に常用量のメリアクトをうっかり処方してしまった	2006/6/19
11	1日3回服用の薬剤に引きずられて1日1回服用の薬剤を1日3回服用してしまった	2006/6/26
12	うっかり！リパンチルからリピディルに同投与量で切り替えてしまった	2006/7/10
13	プレタールとバイアスピリン服用患者がグレープフルーツジュースを飲用して起こった内出血（皮下出血）	2006/7/14
14	ケテックを脳梗塞既往歴のある手足麻痺の患者に処方！まさか、車の運転をするとは思わなかった！	2006/7/24
15	サリグレンの副作用の説明をしなかったため耳鼻科で薬をもらっていた患者	2006/8/7
16	コンスタンとルボックスとの併用による眠気・あくびがトレドミンへの変更で改善	2006/8/11
17	メチコパールのコバルトを放射性物質と思いこんだ患者	2006/8/21
18	抗アレルギー剤による月経異常にも注意を！	2006/9/4
19	医薬品包装の落とし穴！目の不自由な患者が乾燥剤を内服した	2006/9/11
20	抗癌剤、ティーエスワンの併用によってフェニトイン中毒！	2006/9/19
21	むくみや倦怠感を芍薬甘草湯による副作用とは思わなかった患者	2006/10/2
22	便秘解消の目的でベイスンを他人にあげたりもらったり	2006/10/6
23	透析患者に他科から処方された不適正な下剤を大量発見	2006/10/16
24	血液濾過患者にクラリスロマイシンが併用されジゴキシン血清中濃度が徐々に上昇	2006/10/30
25	薬価に全く関心を持っていなかったことから患者との間でトラブル	2006/11/6
26	吸入用ステロイド薬使用後のうがいに関する認識が不十分だった	2006/11/13
27	処方せんに勝手に薬名を加筆しても問題ないと考えていた患者	2006/11/27
28	転院時の紹介状でハイセレン細粒の用量が 1,100 mg のところ 700 mg と書き間違えてしまった！その理由は？	2006/12/4
29	飲み忘れたときには、後で「まとめ飲み」すればよいと考える患者	2006/12/11
29	飲み忘れたときには、後で「まとめ飲み」すればよいと考える患者	2006/12/11
30	セルシン、オメプラールの代謝酵素 CYP2C19 の遺伝子多型の知識は臨床には必要！？	2006/12/25
31	食事をしていない場合、ユーゼルとユーエフティは服用できないと思い込んだ患者	2006/12/28
32	セレベントとフルタイドの併用でフルタイドのノンコンプライアンス！なぜ？	2006/1/8
33	入院カルテから外来カルテへの薬剤（アセトアミノフェン）アレルギー歴の転記もれでヒヤリ	2006/1/22
34	17歳の若年緑内障患者に PL 顆粒を処方、人は見た目判断してはだめ！	2006/1/29
35	メルカゾール錠服用中の患者にイソジンガールを処方してしまった	2007/2/5
36	幼い兄弟二人の同時期の診察で処方混乱してしまった	2007/2/19
37	マレイン酸クロルフェニラミン d 体と dl 体では服用量が違うことを知らなかった医師	2007/2/26
38	PTP の色が似ているディオバン錠とアクトス錠、混乱してアクトス錠を倍量服用してしまった患者	2007/3/5
39	トフラニールからパキシルへの処方変更薬物相互作用の問題を加味しなかった	2007/3/19
40	後発医薬品への切り替えに関して、病院の方針と医師の勘違いから薬剤変更となり不安になった患者	2007/3/26